

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る

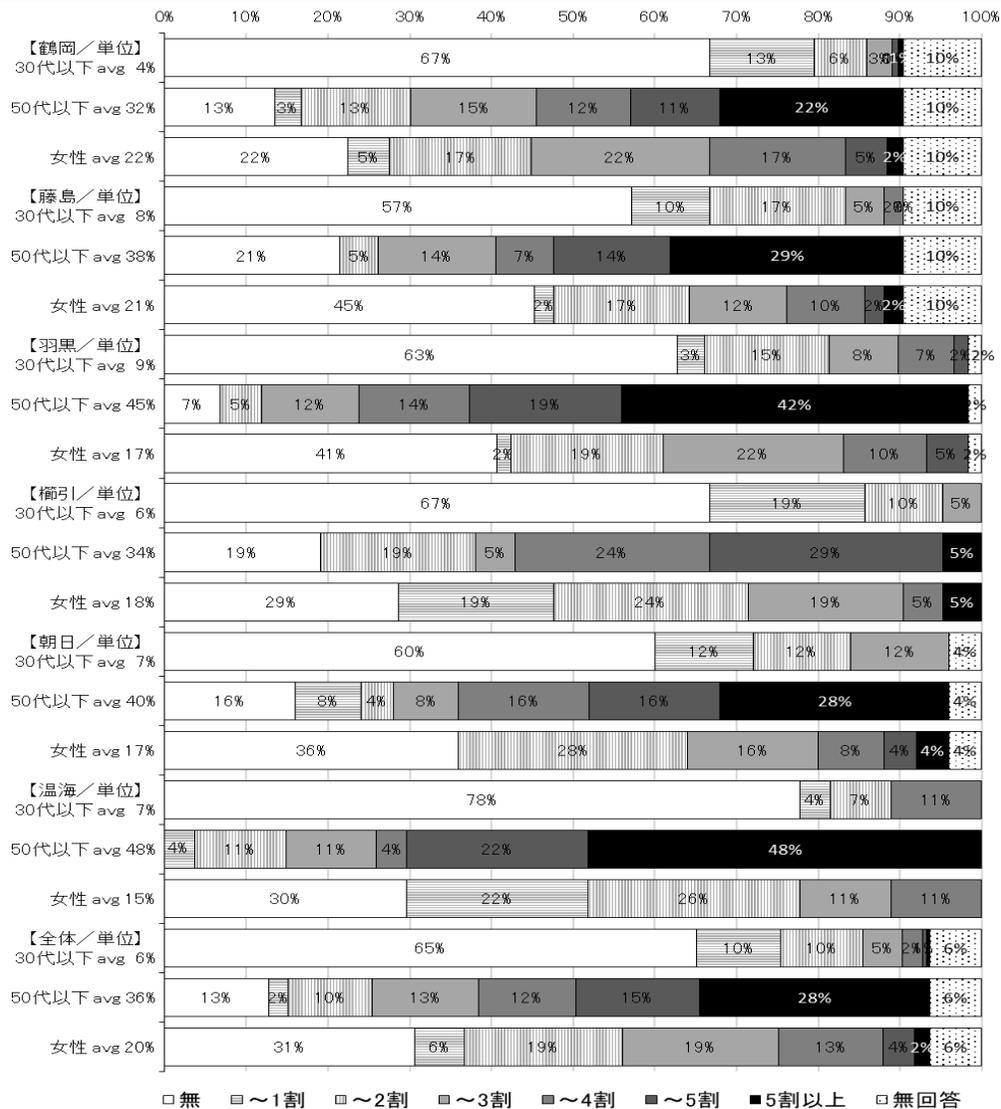
「ふり返しシート」調査報告書(令和3年度)

概要版

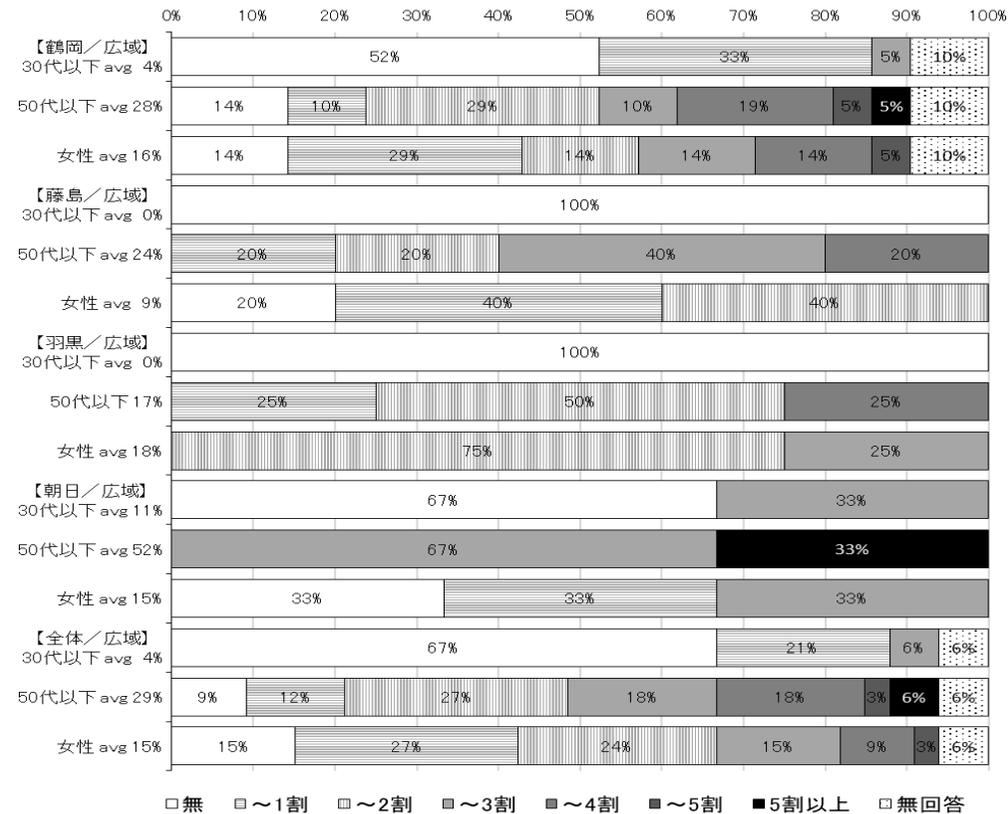
目指す方向性：地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進め、住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、さらに心豊かな暮らしを築く
 計画の柱：心が通い合う持続可能な住民自治組織づくり、住民の安全・安心な暮らしの確保、住民主体による地域課題解決力の向上、地域の特性を活かした魅力の維持・再発見

	鶴岡地域	藤島地域	羽黒地域	櫛引地域	朝日地域	温海地域
単位自治組織の課題	①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②活動の担い手となる人材の確保と育成 ③情報発信と会員確保 ④地域課題の解決に向けた取組の実施 ⑤災害に備えたコミュニティづくり ⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①各世代が参加しやすい活動に再構築 ②将来を見据えた持続可能な組織づくり ③広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し ④広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり ⑤地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築 ⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②多様な人材の活用と役員等の負担軽減 ③多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり ④お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり	①広域コミュニティ組織の検討 ②住民自治組織等の理解促進と事業の見直し ③次代を担う人材育成と後継者対策 ④安全・安心な地域の構築	①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②住民による魅力的な事業づくり ③安全安心な地域づくりのための組織づくり ④単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し ⑤希薄化した連帯感の再構築	①健全な財政運営に向けた検討や組織の見直しによる役員等の負担軽減 ②将来を見据えた単位自治組織の検討 ③安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進 ④次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり ⑤高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり ⑥広域コミュニティ組織の検討
「ふり返しシート」から一部抜粋(単位)	共通課題① 持続可能な組織づくり ・班体制の見直し(10→6)と役員体制の見直しを実施した。 ・既存事業の見直し、町内会における組織体制の見直しや次期役員の見直し、将来を見据えた町内会費の検討を行った。 ・隣接する集落との組織化(消防団)を図った。 ・会長は充て職等多くの重責を抱えているため、代理制度を設け、会長の負担軽減を図った。 ・現役世代でも町内会を務められる体制にした。 ・役員同士の情報伝達にグループLINEを活用し、スピードアップと負担が軽減された。 ・役員の高齢化が進み、これまで役員が行ってきた事業を外部に委託することについて検討した。運営面及び経費面が課題として挙げられ、今後の検討事項とした。		共通課題③ 福祉・防災のまちづくり ・町内会独自の防災マップを作成し、全戸配布した。町のHPにも掲載し、意識改革を図っている。 ・震度7の地震発生を想定し、高齢者の避難と安否確認を重点とした避難訓練を行い、防災意識を高めた。 ・コロナ禍で集団での防災訓練が難しいため、アンケート調査を行い、高齢者や独居者、障害のある方など、避難困難者の把握に努めたほか、防災隊員を招集し、ネットやアプリを通じた情報収集の研修を行った。 ・広域コミュニティ組織と共催で、避難所開設訓練を行った。健康者、身体障害者、ペット連れの方、要介護者、新生児連れの家庭、風邪等の感染者、子ども連れの家庭など多様な避難者の避難場所の区別や、トイレや駐車場の確保、未避難者の確認、けがへの救助活動など、役員だけでなく全ての健康者は避難所で役割分担するのを学んだ。 ・会員に、災害時の安否確認、避難行動、救護救助等に応援を必要とする意思表示の確認をした。隣組回覧で、各戸各人から記入してもらい、69名の方から意思表示を頂いたため、災害時の緊急行動に役立てる一助にしている。回覧での意思表示のため、隣組内で共通理解の心が動いている。 ・災害時(特に津波避難)、体の不自由な方の避難をどうするか、自治会役員・民生委員・消防団と対策を練っている。 ・町の半分がアパートであるが、名簿を掌握していないので、災害時の対応を考えなければならない。		・見守り対象となっている高齢者宅前の除雪ボランティア活動を町内会等で有志を募り、実施した。過度に組織化せず、ゆるやかなボランティア意識による、敷居の低い、参加しやすい活動を心掛けている。 ・一つの隣組(35世帯)で、高齢者世帯の除雪や軽作業(ゴミ出し、買い物、電球交換、家具移動など)を支援する取り組みをモデル的に実施している(「おかげさま券」)。当初細目を実施したが、謝礼について問題が出て、有料に変更。令和3年度実績は100円券で7,000円。収入は、組で行事がある時に支出し、運営の担当は隣組の防災担当者が担っている。	
	共通課題② 人材確保と育成 ・一昨年度の規約改正から(町内会役員)の選考委員の構成見直しを行い、若者や女性が参画しやすい環境づくりを図った。女性役員も1名から6名に増えた。 ・長年務めている部長のもとには出来るだけ比較的若い副部長を配置するように心掛け、来るべき世代交代に備えるように配慮している。 ・市の自主防災組織指導者講習会に1名が参加し、修了証を受領したことは、町内会自主防災計画の推進と人材育成として効果があった。 ・子ども会事業で、田植え・生き物調査・稲刈りの体験事業を開催し、子ども会のほか、町内会・生産組合・老クが参加し、交流を深めている。 ・過去10年間に子供会役員を経験した若手と、町内会活動に関する話し合いの場を持った。役員負担を軽減するための行事見直しや行事削減にこだわりはないようだが、役員になる人は出てこなかった。但し、役員は無理でも、各行事へのスポッ的な協力をするという人は多かった。		・町内会独自の防災マップを作成し、全戸配布した。町のHPにも掲載し、意識改革を図っている。 ・震度7の地震発生を想定し、高齢者の避難と安否確認を重点とした避難訓練を行い、防災意識を高めた。 ・コロナ禍で集団での防災訓練が難しいため、アンケート調査を行い、高齢者や独居者、障害のある方など、避難困難者の把握に努めたほか、防災隊員を招集し、ネットやアプリを通じた情報収集の研修を行った。 ・広域コミュニティ組織と共催で、避難所開設訓練を行った。健康者、身体障害者、ペット連れの方、要介護者、新生児連れの家庭、風邪等の感染者、子ども連れの家庭など多様な避難者の避難場所の区別や、トイレや駐車場の確保、未避難者の確認、けがへの救助活動など、役員だけでなく全ての健康者は避難所で役割分担するのを学んだ。 ・会員に、災害時の安否確認、避難行動、救護救助等に応援を必要とする意思表示の確認をした。隣組回覧で、各戸各人から記入してもらい、69名の方から意思表示を頂いたため、災害時の緊急行動に役立てる一助にしている。回覧での意思表示のため、隣組内で共通理解の心が動いている。 ・災害時(特に津波避難)、体の不自由な方の避難をどうするか、自治会役員・民生委員・消防団と対策を練っている。 ・町の半分がアパートであるが、名簿を掌握していないので、災害時の対応を考えなければならない。		その他 ・広域コミュニティ組織の支援により、サロンを開催。高齢者が集まり、話し合う場を設けることができた。 ・コロナ禍にあって、これまでの行事の代替として、(地域を知る内容の)「ウォークラリー」や、広い場所をお借りして「秋祭り」等を行って、意識の高揚を図った。 ・5月～10月、町内の公園で「ラジオ体操」を実施している。近隣町内からの参加を含め、毎日30人を超える参加者がいる。朝の挨拶や会話があり、つながりもできて、心も体も元気に体操を楽しんでいる。優良団体の表彰を受けた。 ・町の広報は、毎月2頁～4頁で発行しているが、読み手が知りたいことに応えていくが課題である。知らせている内容はクイズにして周知し、クイズ応募者には抽選で、お米を贈呈している。 ・コミセン等と連携して、年齢層やライフスタイルを意識した事業活動を実施した。 ・コミセン等事業へ参加し、見識が広がった。 ・町内会費のキャッシュレス化と回覧板のデジタル化を検討したい。 ・汎用的なアプリを活用し、地域力を上げ、住みやすい地域にしたい。	
広域コミュニティ組織の課題	①時代に調和する運営や事業展開と持続可能な組織づくり ②「地域ビジョン」策定など地域課題解決に向けた取組の強化 ③コミュニティ防災のまちづくり ④単位自治組織の機能補完 ⑤地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討 ⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①地区自治振興会を核とした活動の推進 ②持続可能な運営方法の確立 ③地区内外の団体との連携強化 ④福祉と防災で新たな役割を確立 ⑤「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①身近な地域の居場所づくり ②単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成 ③郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり ④自主防災組織と連携した防災の体制づくり ⑤安心して暮らし続けられるコミュニティづくり	広域コミュニティ組織なし ※単位自治組織の関連項目(再掲) ①広域コミュニティ組織の検討	①住民理解の促進と単位自治組織への支援 ②人材の確保に向けた検討 ③希薄化した連帯感の再構築 ④安全安心な地域づくりのための組織づくり	広域コミュニティ組織なし ※単位自治組織の関連項目(再掲) ⑥広域コミュニティ組織の検討
「ふり返しシート」から一部抜粋(広域)	共通課題① 地域ビジョン策定など地域課題解決に向けた取組強化 ・14回ワークショップを行い、地域ビジョンを策定。ビジョン推進委員会を立ち上げ、4領域にグループ分けして、取組を進めている。また、広域コミュニティに、約20名の若者からなる「未来創造事業部」を設置し、ビジョン推進の主力になっている。 ・地域ビジョン策定に向けた住民意向調査アンケートを実施した(対象は小・中・高生、一般)。 ・令和元年度、ワークショップを4回実施し、地域活動の方向性を示したプロジェクト計画書をまとめ、活動を実践中である。今後、取り組むテーマは明確化されているが、マネジメント能力のある人材確保が課題である。 ・各町内に共通する役員の成り手不足、高齢化、世代間のギャップなどの問題解決のため、初めて、広い世代が話し合うワークショップを開催した。 ・芸工大の学生と「未来を語る会」を立ち上げ、地域の魅力や課題を話し合った。地域資源を活用すべく、山林整備や親子向けの催し等を計画している。 ・地域共創コーディネーターとの連携による若者世代の話し合いの場企画・運営や、趣味講座等の開催により、若者同士のネットワークづくりを図った。 ・観光やインバウンド支援を視野に、新たな地域発信を目標とした英会話教室を開催した。		共通課題② 持続可能な組織づくり ・平成27年度、広域コミュニティ組織、学区社協、学区町内会連合会の事業の刷新を実施した。事業廃止や新事業の発掘など議論したほか、講師を迎え、統合の進め方やこれからの自治組織の在り方などを学び、翌年度3組織は統合した。今後は、小規模組織の再統合が課題である。 ・各種関係団体との意見交換、連携に向けた検討を実施。 ・事業に女性や若者の声が反映できるように、参加枠を設けるなどして協力を依頼している。		その他 ・学区防災計画で指定されている町内会で避難所運営委員会を設置して避難所運営訓練を行う計画である。 ・避難所運営の訓練など町内会の枠を超えた活動が広域コミュニティには求められており、それに応えていかなければならない。	
	共通課題③ 単位自治組織との連携 ・生涯学習活動の力を入れ、各町内の住民から参加いただいている。地域の方々と絆を深める場となっている。 ・町内会等にサロンの開催を促し、広域コミュニティが事務処理を支援することで、町内会主催のサロンの定期開催が実現し、住民間の意思疎通や交流が深まった。 ・これまではコミセンで避難所開設訓練を行ってきたが、今年度は初めて、住民が多く利用する小学校体育館で避難所開設訓練を行った。小学校体育館が避難所となった場合の避難所スペース配置、保管してある避難所物品と使い分け、市避難所開設運営マニュアルの説明など、市防災安全課・コミュニティ推進課職員との協力のもと、各町内会から中核的な役割をする方3名ずつ68名の参加を得た。次年度は、		・学区防災計画で指定されている町内会で避難所運営委員会を設置して避難所運営訓練を行う計画である。 ・避難所運営の訓練など町内会の枠を超えた活動が広域コミュニティには求められており、それに応えていかなければならない。		その他 ・地域内互助の仕組みによる除雪支援活動を実施した。 ・地域版「見守りの心得」を作成し、地域に配布した。孤独死の防止や緩やかな見守りによる支え合いの意識の醸成に努めた。 ・生涯学習講座について、学習コースを整理統合し、分かりやすく、手間のかからない構成に見直した。講座のおためし券を利用いただき、受講者増につなげた。 ・以前から地域の特産物の加工を通して、地域の一体感を高め、環境保全と活性化を図っている。 ・他地区とも連携している教育旅行や視察など、積極的に受け入れを行うと共に、地域の方をインストラクターにすることで、お金のノウハウの継承などを意識した。 ・まち歩きガイドを通して400名ほどの方が地域を訪れ、ガイドさんへ報酬をお渡しすることができた。	

【共通指標】 役員構成



若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R3 単位自治組織）



若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R3 広域コミュニティ組織）

若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（平均値）

	R3			R4			R5			R6			R7		
	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性
単位自治組織	鶴岡地域	4%	32%	22%											
	藤島地域	8%	38%	21%											
	羽黒地域	9%	45%	17%											
	榊引地域	6%	34%	18%											
	朝日地域	7%	40%	17%											
	温海地域	7%	48%	15%											
	全地域	6%	36%	20%											
広域コミュニティ組織	鶴岡地域	4%	28%	16%											
	藤島地域	0%	24%	9%											
	羽黒地域	0%	17%	18%											
	朝日地域	11%	52%	15%											
	全地域	4%	29%	15%											

「ふり返しシート（令和3年度）」調査報告書（全域分、各地域分）は鶴岡市HPから閲覧できます。

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/kurashi/katsudo/chiki/houshin-keikaku.html>

